

第3回 新潟市水族館指定管理者申請者評価会議 議事録

- 1 開催日時 平成28年10月18日(火) 午後1時30分から午後3時30分
- 2 開催場所 新潟市役所本館対策室2
- 3 出席委員(6名)
 - 荒井 一利 (鴨川シーワールド総支配人)
 - 菊野 麻子 (フリーアナウンサー)
 - 木伏 隆 (アイシスネオ会計税理士法人 代表社員・所長)
 - 徳永 健一 (新潟県立近代美術館館長)
 - 濱口 哲 (新潟大学理事)
 - 松岡 沙知 (特定非営利活動法人新潟NPO協会 プログラムコーディネーター)
- 4 文化スポーツ部文化政策課出席職員(4名)
 - 課長 中野 力
 - 課長補佐 南雲 洋子
 - 管理チーム係長 黒川 正憲
 - 管理チーム主事 石川 加奈子
- 5 傍聴者 4名
- 6 会議録(公開部分)

| | |
|------|--|
| 南雲補佐 | <p>これより、第3回新潟市水族館指定管理者申請者評価会議を始めさせていただきます。本日、司会を務めます文化政策課の南雲でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、文化政策課長の中野よりご挨拶申し上げます。</p> |
| 中野課長 | <p>新潟市文化政策課長の中野でございます。</p> <p>皆様、本日はお忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。今まで、2回に渡りましてこの評価会議を開催させていただきまして、新潟市水族館の次期指定管理者制度についてご意見をいただいていたわけですが、今回はいよいよ応募者からのプレゼンテーションによる事業内容等の評価となります。</p> <p>今回のプレゼンテーションの内容次第ではやり直しということもないわけではないですが、今回の会議が皆様にお集まりいただく最終の会議ということで予定をしております。プレゼンテーションの後には質疑の時間も設けますので、その際には、水族館発展の為に、皆様からどんどん質問をしていただきたいと思います。</p> <p>今までの会議でも申しあげましたが、マリニピア日本海は年間で50万人以上が訪れる、本市にとっては非常に重要な施設ということでございます。リニューアルを既に終えておりまして、その後、近隣で新しい水族館がリニューアルしたりオープンしたりということで、大変厳しい状況ということは変わらない状況なのですが、そういうことからすると、ハードではなくてソフトの面</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>で、今後色々工夫が必要になってくるかなと思いますので、その辺り、皆様からも、今回のプレゼンテーションを聞いていただいて、色々ご意見いただければありがたいと思っております。</p> <p>本日は、よろしくお願いいたします。</p> |
| 南雲補佐 | <p>ありがとうございました。</p> <p>本日の会議は、指定管理者申請者からのプレゼンテーションとなります。プレゼンテーションは公開となります。また、本日の会議内容を記録するため、事務局で録音させていただきますのでご了承ください。</p> <p>では、資料の確認をお願いいたします。まず、本日の会議次第。それから指定管理者指定申請にかかる提出書類。事前にお送りしているファイル式でございます。それから先ほどお配りしましたが、指定管理者選定基準・評価項目の用紙1枚です。そしてもう一つ、机上にこちらのカラー印刷のもの、これが申請者からの、これからプレゼンテーションする際の画面に映るものということでございますが、印刷したものもお配りしております。</p> <p>以上でございますが、不足の方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>よろしいでしょうか。続いて、事務局黒川から、本日の会議の流れについてご説明いたします。</p> |
| 黒川係長 | <p>文化政策課の黒川です。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の流れについてご説明する前に、一つ訂正を入れさせていただきます。前回の会議で、客単価が落ちている原因の一つとして、文化の日の無料開放の実施を挙げておりましたが、こちらは誤りまして、水族館では実施しておりません。正しくは、ニイガタ検定1級合格者、乗客をお連れいただいたタクシードライバーの方、観光バスのドライバー、添乗員の方、観光案内団体のガイドの方などの入場料無料化でございました。訂正させていただきます。お詫びいたします。</p> <p>それでは、本題に戻らせていただきます。まずは、次期水族館指定管理業務に申請していただいております、新潟市海洋河川文化財団・新潟市開発公社共同事業体から、30分程度のプレゼンテーションを実施していただきます。</p> <p>次に、プレゼンテーションと事前にお配りしております各種申請書式について、評価委員の皆様から申請者にヒアリングを実施していただく時間を30分程度見ております。その後、委員の皆様からの評価となります。会議はここで非公開とさせていただきます。傍聴の方々と申請者の方々はここでご退席をお願いすることになります。</p> <p>評価は、本日お配りしております指定管理者選定基準・評価項目を用いて評価していただくこととなります。評価時間は概ね10分程度を見ております。皆様からご意見をいただく時間を少々いただきたいと思っております。以上が本日の流れでございます。</p> |
| 南雲補佐 | <p>以上、本日の会議の流れになりますが、質問はございますでしょうか。</p> <p>それでは、ここからの進行は徳永委員長をお願いいたします。</p> |
| 徳永委員長 | <p>徳永でございます。早速でございますが、申請者からのプレゼンテーションをお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> |
| 申請者 | <p><入場></p> |
| 小黒専務理事 | <p>只今から、新潟市水族館次期指定管理者選定評価会議におけるプレゼンテーションを始めさせていただきます。私はこの3月15日に新潟市が100%出資し</p> |

て設立されました新たな財団である一般財団法人新潟市海洋河川文化財団で専務理事をしています、小黒といいます。どうぞよろしくお願ひします。

本日は、新潟市の水族館の次期指定管理者選定評価会議において、私たちの提案を発表する機会をいただき、誠にありがとうございます。

説明させていただきます。平成2年の新潟市水族館マリンピア日本海のオープンから私たちが管理に携わり、26年が経ちました。平成25年にはこれまでの管理運営におけるノウハウを取り入れた大規模なリニューアルを行い、国内トップクラスの飼育技術と研究内容であるとの外部評価をいただきました。このリニューアル以降、入館者数は毎年50万人以上をキープしております。新潟市は開発公社の水族館部門を分離独立させることを方針としました。そのため、新たな財団は水族館だけの財団とし、小回りが利く組織とすること。今まで培ってきた高度な飼育技術を持つ専門家集団とすることです。そして、今後も魅力ある展示を継続し、入館者から満足していただける水族館として、地域の持続的発展と新潟市の文化醸成に寄与することを目標といたしました。

これを達成するために、理事長には、民間企業における経営感覚を発揮してもらいたいということで、新潟日報社の前の社長で、現在は相談役の高橋道映氏にお願いしました。理事としては、元東海大学教授で大学の博物館の館長も務めていた西源二郎氏にお願いいたしました。西氏は東海大学退官後、東京の葛西臨海水族園の園長も務めておられました。今後も新潟市水族館は国内でトップクラスの水準を維持したいと考えておりますので、色々と西氏からご助言をいただきたいと考えております。他の理事、評議員としては、観光の分野、文化の分野、生物学関係、幼児教育関係など、各方面の代表の方から就任いただきました。

次期指定管理期間である平成29年度、30年度は、水族館開館以来管理運営を行ってきた新潟市開発公社と新財団である新潟市海洋河川文化財団と共同事業体を構成して指定管理者の提案をさせていただきました。これは、開発公社のこれまでの経験、ノウハウを引き継ぎ、社会的信用力、管理運営の安定性、継続性を重視したものです。

その後、平成31年度からは新財団は単独で指定管理を受託したいと考えております。そのためには、いくつか乗り越えるべき課題があると考えております。まず、共同事業体での指定管理者として、今回、ぜひ受託したいと考えております。次に、新潟県から公益財団法人としての認定を受け、社会的信用力をつけたいとスタートを切りたいと思っております。そして、飼育技術関係職員の身分としては、開発公社から新財団への転籍をスムーズに行いたいと思っております。既に、この7月には技術系職員全員から転籍の承諾書を提出してもらっております。そして何より、今まで以上に飼育技術の向上に努め、繁殖など、種の保存、生物多様性の保全に貢献するとともに、子どもたちなどへの環境保護教育に力を入れていきたいと思っております。さらに、入館者数の維持増加を図り、新潟市水族館として市民から愛され、親しまれる施設づくりを行いたいと思っております。そして、公立の水族館でしかなしえない内容で施設としての存在感を示していきたいと思っております。

ここで、少し現在、全国の水族館が置かれている状況をお話しします。昨年の春にイルカ問題がマスコミでも取り上げられました。和歌山県の太地町での追い込み漁により捕獲されたイルカが全国の多くの水族館でのイルカの供給元です。

| | |
|------|--|
| | <p>世界動物園水族館協会 WAZA からは追い込み漁によるイルカ猟は問題があるとされました。そして、WAZA は水族館でこのイルカを導入し続ける場合は日本動物園水族館協会 JAZA を除名すると通告を出しました。これを受けて JAZA は、今後は太地町からはイルカを導入せず、繁殖などに努めるとして WAZA への残留を決めたところです。このように、現在の動物園、水族館は自然界から捕獲して飼育展示をすることがなかなか困難になりつつあります。</p> <p>水族館には四つの役割があるといわれております。一つ目は、種の保存、生物多様性の保全に貢献すること。二つ目は、生物学など科学技術の発展に寄与すること。三つ目は、環境教育など、子どもたちや市民への教育、普及を行うこと。そして四つ目は、市民の健全なレクリエーション、観光などを担うということです。私たちはこれらをバランスよく公立の水族館に相応しい内容で管理運営に努めていきたいと思っております。何とぞよろしくお願いいたします。</p> <p>私からは以上です。引き続き、館長が説明いたします。ここからは資料の後ろの方にありますプレゼン資料をご覧くださいながらお聞き取りいただきたいと思っております。なお、スクリーンには途中で動画を映したいと考えております。よろしくお願いいたします。</p> |
| 加藤館長 | <p>館長を拝命しております、加藤です。よろしくお願いいたします。</p> <p>資料に基づいてお話しさせていただきます。まず、事業理念でございますが、一般的に理念、だれが考えても世のため人のためということだと思っておりますけれども、ここでは設置者の目的と水族館の専門家としての意見を勘案、併記し、理念といたしました。</p> <p>記載のとおりでございますけれども、水族館は地域社会の持続的発展に不可欠な環境保全意識の啓発、醸成の場としての社会的基盤、すなわち公共施設であるとの理念の下、水族館を自然と人とを結ぶメディアと位置づけ、設置者と市民との間における水族館運営の専門家として、また、自然と市民社会をつなぐ水生生物と環境に関する情報発信基地として運営努力いたすというものでございます。</p> <p>次に、運営方針でございますが、リニューアルオープン後の平成26年度に平成2年度の当初からの使命として掲げられた項目を四つの項目に整理し直しました。それらは明確なテーマを持った水族館、体験型的水族館、自然環境保護のきっかけづくり、施設整備の最善の対応の4項目でしたが、今年度は、これらの項目を統合整理し直し、一部より具体化し、資料記載の5項目といたしました。第1項は水族館の根本的な機能です。水族館でしかできないこと、水族館が主体としてすべきことです。第2項は地域性の発揮。日本海を主たるテーマとして明確化しました。第3項は多様な生物展示の特性を生かしたアピール方法、手段でございます。第4項は公共性。人類の持続的発展の基盤であり、次世代以降の将来にわたった時間軸に沿った貢献と考えております。第5項は、これらを実現するための現実的な対応です。これらの運営方針に基づき、来館者がまた来たいとか、家族や知人に勧めたい、他の水族館と比較してもより気に入ったなどの感想を抱いていただけるような、さらに言えば、業界内では他の水族館の手本や目標となるような、新潟市にマリンピア日本海があつてよかったと思っただけのような水族館を目指してまいります。</p> <p>次に、事業計画です。実際に想定される理想的な来館者の認知上の道筋に沿って三つの目的を掲げ、五つの事業に分類して記載いたしました。三つの目的です</p> |

が、まず、実際に生きている生物を観察し、その生物そのものの形、色、大きさ、動きなどを知るという基礎的な認知。

次に、その生物に係わる情報、例えば、分類上の位置や分布域、繁殖方法など、言わば側面的ではあるけれども様々かつ科学的に正確な情報を併せて知ることにより、より大きな意味での生物情報を知り、正しい理解につなげるという応用的な認知。さらには、その結果得られた正しい理解を基に、その種だけではなくて、その種の生息する環境、つまりは生態系への関心と知識の向上に資するといった発展的事柄です。

次に、五つの事業を掲げておりますが、これらは博物館の持つ基本的機能、すなわち、対象物を集めて保管して調べて展示するに順次転用し、水族館仕様にしたもので、1と2では、対象を生きているものとかつて生きていたものに分けて記載したものです。実際のマリンピアにおける事業は、資料下方に目標を達成するためとして、実際の展示形態等により整理し直しております。

はじめの行は、水族館の事業の根幹を占めボリュームも多い、いわゆる常設展示の維持管理です。専門家として長年培った知識、経験、技術等を最大限に発揮することが求められます。館内の映像がございますので、ご覧いただきながら説明を続けさせていただきます。

リニューアル時に増設したアプローチです。ミュージアムショップを併設しております。

同じく増築した潮風の風景ゾーンです。7器の水槽で底質ごとに海辺の環境を展示する導入部分であります。人気のあるさんご礁水槽には最新のノウハウが応用されています。館内はテーマ別に10のゾーンにわけ、分かりやすく展示、展開をしております。

日本海ゾーンの大水槽、水面部分から、マリントネルです。

暖流の旅ゾーンです。黒潮と津島対流に沿った生物地理学的な展示を行っております。

館内の所々に設置されたハンズ・オンです。

育成室です。繁殖生物やえさ生物の培養などをご覧いただけます。

マリンピアホールにはクラゲの円柱水槽を設置しております。

信濃川ゾーンでは、新潟の淡水魚等を展示しております。こちらは境内繁殖させた絶滅危惧種のシナイモツゴです。

水辺の小動物ゾーンでは、アメリカビーバー、ユーラシアカワウソ、バイカルアザラシ、ラッコ等の水生ほ乳類を展示しております。

ちなみに、ビデオの視点は地上高 95 センチ、バリアフリーを想定して映像を録画しております。

屋外に設置した新潟フィールドです。里山の水辺環境を再現した完全管理型のビオトープで、在来種と希少種のサンクチュアリの機能も果たし、また、整備された芝生ではお弁当を食べたり外遊びができたりします。ハンズ・オンではメダカのクイズなどもあります。こちらは東屋に設置した動植物の図鑑でございます。

2番目は演示展示という手法で、最大 1,500 名ほど収納可能な観客席に入館者を集め、1日複数回、時間を決めてイルカに訓練した行動を指示しながら解説を行う事業です。

| | |
|--------|---|
| | <p>水族館は多数の入館者を迎える施設ですから、館内を自由に巡回しながら水槽を順にご覧いただくという手法は、一度に沢山の入館者に対応できるという観点から、常設展示のメリットです。一方、演習展示も沢山の入館者に対し感動体験を共有しながらメッセージ性の高い展示ができる点で、優秀な展示手法と考えられます。現在、ハンドウイルカ3頭、カマイルカ4頭、交替にイルカショーにも来ています。</p> <p>3番目は特別展示です。期間を限定した展示で、テーマに沿ったものや季節性のあるものなど、常設展示を保管しつつ新規性や話題性をもたらす展示となります。こちらは、現在開催中の新潟のサンショウウオ展です。特別天然記念物のオオサンショウウオも展示しております。各種体験型のプログラムは、基本的に職員により定期的に開催する解説系のプログラムです。人数的な制限はあるものの、双方向コミュニケーションによりきめの細かい正確な情報提供ができます。</p> <p>こちらはトドの給餌解説を行っているマリンサファリ、ひれあしの入り江ゾーンです。</p> <p>ペンギン海岸です。フンボルトペンギンとイワトビペンギンを飼育しております。併設のペンギンの散歩道では給仕解説を実施しております。</p> <p>大水槽解説です。魚類や水質の管理方法等の説明を行います。</p> <p>ひれあし類解説です。現在は、昨年生まれのゴマフアザラシを用いて入館者の間近で解説を実施します。</p> <p>体験・学習ゾーンです。アクアラボ体験では日替わりのプログラムを実施しています。こちらは参加者が動物役になって訓練の実際を体験するプログラムの様子です。</p> <p>同じく、体験・学習ゾーンの磯の生き物水槽で生物解説を行っているところです。</p> <p>ラッコの給餌解説です。国内13頭の希少な動物です。健康管理のための行動訓練を応用し、いくつかの行動を動物に指示することができるようになっていきます。</p> <p>映像は以上でございます。</p> <p>資料に戻りまして、調査研究事業ですけれども、飼育生物や地域に分布する生物に関する調査研究は…。</p> |
| 徳永委員長 | どこを見ればいいですか。 |
| 小黒専務理事 | 2ページ目をご覧ください。2ページ目の下の方になります。 |
| 加藤館長 | <p>下から2行目です。</p> <p>飼育生物や地域に分布する生物に関する調査研究は、継続的な情報の収集と正確な情報発信という観点から重要です。専門的な会議や学会等で発表するとともに、ホームページなどで公開してまいります。</p> <p>最後の項目は、次世代への持続的な貢献という観点から、水族館ならではの学習機会の提供の一形態として実施してまいります。</p> <p>私からは以上です。続きまして、石田管理課長よりご説明いたします。</p> |
| 石田管理課長 | <p>石田です。よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、次のページ、事業計画(2)集客の増加及び維持に関する実施方法と達成目標について説明いたします。</p> <p>活動実績と分析について。平成25年7月のリニューアルオープン以降、当館</p> |

を取り巻く状況として、鶴岡市立加茂水族館、仙台うみの杜水族館と2年続けて周辺地域に新規オープンする水族館があり、広域圏としての大きな競争要因となりました。そこで、地元の固定ファンをしっかりとつかむという方針を立て、集客活動は年間パスポート購入を増加させることと、そのリピート数を増やすことに重点を置いて実施しました。その結果、リニューアル1年目に1万1,097人と飛躍的に増加したものの、次年度に7,969人と減少したパスポート購入者が平成27年には1万87人まで回復し、リピート数と併せると2年間で約11万人の方がパスポートでの入館者となり、一定の効果がありました。

次に、集客の基本方針です。新しいお客様に来ていただくこととリピーターを増やすことの2点について、特に力を入れて取り組みます。新しいお客様獲得のための戦略とリピーター確保のための取組を明確に区別し、それぞれ別の角度から訴求します。

集客の数値目標について。資料の左下の集客のための事業を基に、公の施設目標管理型評価書にある評価指標、年間入館者数51万人を基準として、その入館者数を上回ることを目指します。また、パスポート購入者は年間1万人を維持し、平均リピート数は7回以上を目指します。

次のページをご覧ください。事業計画(3)広報計画について説明します。広報についての考え方。広報活動の目的は、当館の活動等を広く社会に対して発信することで認知度を上げ、集客に繋げることです。広報活動は広告宣伝、ホームページ、SNS、プレスリリースの四つを柱としています。この四つの活用例として、例えば、話題性があり即効性が必要な情報はプレスリリースを行い、同時にホームページに掲載、SNSで情報を発信します。また、ターゲットを明確にして情報の提供や割引クーポン券を掲載するなど行う場合は広告宣伝を行います。なお、プレスリリースはいわゆる報道機関へのリリースだけではなく、新潟市の各部署が展開しているSNSのページや新潟観光コンベンション協会運営の観光情報サイトなどへ積極的な情報提供を行い、草の根の広報を進めていきたいと考えております。

続いて、メディア配分についてです。右下の円グラフをご覧ください。館内アンケートによると、当館の広告で見たり聞いたりしたことがあるメディアとして、38.2%がテレビのCMを上げています。その他は概ね5%から10%となっています。このデータを基に各メディアの予算配分をおよそ右下の図のような配分にしております。ちなみに、テレビCMが約40%、次の赤いものはラジオCMでございます。4%。あと、旅行雑誌などを10%というように考えております。

次に、実施時期についてですが、当館は夏期の繁忙期と冬期の閑散期が明確にあります。総入館者数の約75%以上が4月から10月までに来館されます。よって、季節的な配分については、5月のゴールデンウィークと夏休みに向けたプロモーションに重点を置いて実施いたします。

次のページをご覧ください。続きまして、自主事業に関する事業計画について説明いたします。魚類等に関する知識や親しみをより深めるため、定員を定めて事前に参加者を募集する自主事業をご覧の資料のとおり行います。幼児向けや小学生向け、親子向け、大人向けなど、対象を設定した各種体験型プログラムを実施することで、水生生物とその生育環境に関する知識を学ぶ機会を提供します。

水族館の設置目的を最大限果たすため、ライフスタイルの変化やニーズの多様化に柔軟に対応し、タイムリーで納得感が得られる魅力的な事業を開催します。なお、私たちが開催する自主事業は、利益を目的としていない事業であるため、だれでも気軽に参加できるリーズナブルな料金設定としております。また、来館者の利便向上のため、レストラン、ミュージアムショップの出店、自動販売機などを設置いたします。

次のページをご覧ください。管理運営に関する事業計画の（１）となります。入館者ニーズの把握と具体的な取組み内容についてご説明します。入館ニーズの把握については、ご覧の資料上の４項目のとおり、積極的な声掛け、館内アンケート、各教室参加者アンケート、電子メールを用いて積極的に行います。お客様からいただいた意見、要望等は、施設管理運営の質の維持、向上への重要な役割を担うものと認識し、それをどのように活用していけばよいかを検討し、サービスの向上に役立てます。いただいた意見、要望等については職員全員に周知し、お客様の評価やニーズ、課題点を共有いたします。

事業計画書やご覧いただいている資料の下の部分に具体的な取組みを掲載しておりますので、ご覧ください。

次のページをご覧ください。管理運営に関する事業計画（２）、経費の削減について。最小コストで最適な管理を目指し、かつ、お客様への快適なサービス提供を図るという基本原則を基に水族館を運営しています。具体的には、資料記載の項目について取組んでおります。また、私たちは指定管理制度導入前の平成２年、水族館開館以来、集客のための広告宣伝費を指定管理料のほかに収益事業収入から２,０００万円程度を独自に支出しております。また、館内にある１７台の自動販売機手数料収入の一部を施設管理費へ充当いたします。

続きまして、安全性の確保について説明いたします。私たちは安全性の確保を最優先事項と認識し、施設の管理運営に努めます。災害、事件、事故発生時は危機管理マニュアル及び緊急連絡網に基づいて館長または当日の管理職を責任者として、お客様を最優先に対応します。お客様に体調不良や負傷者が出た場合は、救命救急講習を受講した職員による応急処置や救急車の養成など、必要に応じた対応をいたします。状況に応じ、新潟市文化政策課へ連絡し、必要な指示を仰ぎます。また、夜間の機械設備の故障や展示生物の異常などについては宿直職員から緊急連絡を受け、適切に対応いたします。

次のページをご覧ください。管理運営に関する事業計画（３）になります。維持管理について。施設の維持管理については、安全・安心の確保、安定した施設運営、経費削減を３本の柱として掲げ、会館当初から培ってきた豊富な経験と実績で適切な維持管理に努めます。

組織体制について。水族館の管理運営という特殊性のある業務を遂行していくため、専門分野の知識、技能、資格等を持った人材を配置し、質の高い安定したサービスを提供していきます。

展示課職員。当館以外での実務経験を含め、水族館における飼育実務経験者を各係に配置し、公共施設として良質なサービスを安定的に提供していきます。マリニピア日本海は博物館法の登録を行っていませんが、博物館類似施設として学芸員有資格者を配置いたします。そのほか、獣医師や潜水土、小型船舶操縦士等、展示課の業務を遂行していくために必要な有資格者を配置いたします。

| | |
|---------------|--|
| | <p>管理課職員について。安全・安心の確保、安定した施設運営を行っていくために、多種多様な公共施設の管理運営に携わってきた職員を各係に配置いたします。また、専門的な知識、資格を持つ設備担当職員を配置いたします。過去の故障履歴、各機種の不具合など、マリニピア日本海の設備に熟知した設備担当職員が保守管理を行っていきます。</p> <p>次のページをご覧ください。社会貢献・地域貢献について説明いたします。私たちが管理する水族館は、ただ見せるのではなく、体験型水族館として市民の文化活動の一翼を担うという考えのもと、一例として、毎日開催のアクアラボ体験を実施しています。また、毎月実施しているいきもの教室は実物を使った観察、実験などにより、生き物への理解を深めることができます。</p> <p>市内産業への振興及び貢献、市内在住者の雇用確保について。資料の中ほどにあります、ご覧のとおり取組んでまいります。また、レストラン、ミュージアムショップの出店業者も募集要件に新潟市内に本社、本店を置くものと定めております。</p> <p>地域連携について。ボランティアスタッフは常時90名程度登録しています。お客様への館内案内、いきもの教室の補助、研修によるスキルアップが主な活動内容です。また、リニューアルによりバリアフリーを実現したことで、沢山の障がい者が今までより一層気軽に訪れて、日常生活に潤いを得ることのお手伝いをしたいと考えています。障がい者の減免措置やその確認、事務処理等を今以上に適切に行い、公平で平等な利用に配慮します。また、日本海区水産研究所や新潟漁業協同組合、NPO等と緊密に連携し、種の保存や各種研究を進めていきます。その成果として、アカムツ、いわゆるノドグロの人工授精からの育成に世界で初めて成功し、展示しています。</p> <p>環境保護について。資料下の方にございます、ご覧のとおり真摯に取り組んでまいります。</p> <p>私からの説明は以上でございます。</p> |
| <p>小黒専務理事</p> | <p>最後になりますが、平成2年の開館以来の管理運営の実績とノウハウを基に、来年度以降2年間について、職員一丸になって取組ませていただきたいと思います。これでプレゼンテーションを終了いたします。ありがとうございました。</p> |
| <p>徳永委員長</p> | <p>ありがとうございました。</p> <p>質問に入る前に一つ申し上げておきます。冒頭の説明のところは、どれを見ていただきたいのかということを中心にきちんとやらないと、説明にならないです。これからは、できれば、傍聴の方もいらっしゃるのでも、せっかくパワーポイントを用意されているのだから、こういうものでやるよりもパワーポイントでやられたほうが絶対に、皆さんが注目してどういうことをおっしゃっているのかがよく理解していただける。</p> <p>競争で指定管理をやる場合には、これだったら負けてしまいますよ。提案をするということは、自分たちのことをきっちり説明して理解していただくということなので、そうでないと安心してお任せする形にはならないです。主にここに全部書いてあるということで、これを理解して今後質問していきたいと思いますが、次の指定管理の時にはきっちりやられないと、なかなか皆さんに理解していただいて指定管理になるというのはできないと思いますので、一言だけ申し上げ</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>ます。</p> <p>それでは、これよりヒアリングに移らせていただきます。質問等のある委員の方は挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。</p> |
| 木伏委員 | <p>事前にいただいた青のファイルのほうから質問させてください。申請者の役員等の一覧表がございまして、先ほどご説明があったと思うのですが、今現在、一般財団法人ということで、いずれ公益のほうに移りたいということです。大体何年くらいを目途になさっているかということ。</p> <p>それから、今回、共同で出されていますけれども、この評議員の中でダブっている方がいらっしゃるのですが、それは法的に問題はないのですか。</p> |
| 小黒専務理事 | <p>まず、先ほど私が説明しました公益法人への移行についてですが、すでに2年前から県と打ち合わせはしております。今回、だいぶ申請書類等整いましたので、この10月末に開発公社の公益事業としては水族館部門を削除する。それから一般財団法人のほうでは水族館事業を公益事業としてあげるということで10月末を目途に県に申請する予定にしております。目指す時期としては来年の4月1日、指定管理期間が始まる時に、何とか公益財団法人として認知していただきたいと思っております。</p> <p>それから評議員が一部ダブったという部分はありますけれども、その意図としては、今、開発公社はスポーツ施設等、それから水族館と色々な事業を行っておりまして、水族館部門の関係者ということで評議員をお願いしている方について、こちらに移っていただいたという意味でございまして、水族館事業がなくなった折にはダブリはなくなって、水族館関係者についてはこちらの海洋河川文化財団に移っていただくと考えております。問題はないと思っております。</p> |
| 木伏委員 | <p>今現在、一般財団のほうでは理事の方が5人、評議員が5人なので、公益財団になると1人評議員を減らさなければなりませんよね。評議員は理事以上の数でないといけないと思うのです。</p> |
| 小黒専務理事 | <p>私どもが県と打ち合わせしている中では、これでいいという話は聞いておりません。</p> |
| 木伏委員 | <p>5対5でよろしいのですか。分かりました。</p> <p>それと、同じくいただいた青いファイルの、ページで申し上げますと、事業計画書の2ページ、様式の6です。4とありまして、4の中の(2)経費の削減の丸の二つめなのですが、採択について、可能なものは複数年契約を締結すると書いてあると思うのですが、よろしいですか。</p> |
| 小黒専務理事 | <p>はい。</p> |
| 木伏委員 | <p>では、同じファイルで、これはページを打っていないのですが、26ページの次のページになります。新潟市水族館再委託業務一覧表と出ていまして、業務名が1から15まで入っています。これを見ていきますと、ほとんどが、今、複数年の契約になっていまして、単年度が3つしかないと思うのです。この辺のところで、経費の削減は一体どのくらいできるものなのか、疑問が湧いたのですが、いかがでしょうか。</p> <p>15の内11が複数年で、単年度が3つ、あと1か月単位が1つと。あまり経費の削減にならないのではないかと思ったのですが、いかがでしょうか。</p> |
| 石田管理課長 | <p>開発公社、いわゆる公益財団法人の契約方法としては、基本的に委託業者と契約する場合は単年度契約を基本としてまいりました。指定管理制度が始まりまし</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>て、開発公社全体としても経費の削減を求められているものですから、可能なものは複数年契約をするということで、徐々に準備をして始めてきたところでございます。</p> <p>それで、3年前の選定に当たって、ある程度努力した結果が今回の表になった複数年契約ということになっております。今回、指定期間が2年と短いので、この水準を維持するのが経費の削減という観点からも難しい部分があると思うのですが、そこを付き合いのある業者とよく相談して複数年による経費の削減を少しでも提示してもらえるように努力したいということで、記載しております。</p> |
| 木伏委員 | <p>また同じ青のファイルなのですが、収支計画書の、ページが打っていないのですが、2ページ目、収支計画書内訳（指定管理業務会計）という書類があると思うのですが、人件費なのですが、管理職、管理課、展示課、飼育、アルバイト、補助と書いてありまして、金額と人数を単純に割っただけの話なのですが、管理職が一人当たり約790万円。管理課が一人当たり約750万円。展示課が一人当たり660万円。飼育、事務補助、アシスタント、受け付けが一人当たり約210万円ということで、概ねこのような給与水準と考えてよろしいのでしょうか。</p> |
| 石田管理課長 | <p>はい。よろしいかと思います。</p> |
| 木伏委員 | <p>それと、本日いただいたこちらの資料になりますが、2の事業計画の（2）にあるのですが、リピーター数の増と書いてあるのですが、リピーターの方の特典とか、例えば、3年続けた方についてはゴールド会員にするとか、そういった特典をお付けになった方がよろしいのではないかと思います。</p> <p>この資料には書いていないのですが、ホームページを見ましたら、今はコンビニでもチケットを買えるそうですね。もしできましたら、どれくらいの方がコンビニで買っているのかというデータがあるなら教えていただきたいと思っております。</p> |
| 斎藤管理係長 | <p>管理課の斎藤と申します。</p> <p>ただいまのコンビニチケットの販売数でございますが、平成25年度で1万4,126人、平成26年度で1万1,679人、平成27年度で7,844人というお客様からご購入いただいております。</p> |
| 木伏委員 | <p>もしできましたら、回数券も売ってもらったほうがいいのではないのでしょうか。コンビニで、もし売れるようでしたら。</p> |
| 石田管理課長 | <p>検討してまいりたいと思っておりますが、何分にもコンビニで販売するには販売手数料がかかってしまうものですから、その対応について、新潟市と協議して、できるだけ利便性の高いチケットの販売方法を考えていきたいと思っております。</p> <p>あと、先ほど言いましたパスポートのゴールド会員というご提案なのですが、始まって以来、パスポートのお客様の顧客管理システムがなかなか不完全なもので、お客様の情報をダイレクトにつかむことが今まではできませんでした。それで今年度、来月からなのですが、パスポートのお客様の顧客管理システムを整備しましたので、今回からは何回目のご来館で期限までどれくらいかというのをすぐお客様に提示することができるようになり、1年目、2年目、継続の会員の方の情報も分かるようになりますので、その辺のサービスを準備しているところでございます。</p> |

| | |
|--------|--|
| 木伏委員 | それと、3の自主事業に関する事業計画です。一番下にレストラン、ミュージアムショップの事業と書いてあるのですが、今現在、レストランもショップもあると思うのですが、これはさらにまた出店するという意味ですか。 |
| 石田管理課長 | いえ、既存の出店をそのまま…。 |
| 木伏委員 | 既存のものをよりよくしていくということですか。 |
| 石田管理課長 | はい。 |
| 木伏委員 | 分かりました。 その次のページの管理運営に関する事業計画（1）なのですが、入館者ニーズの把握ということで、電子メールです。今日、ホームページを見てきたのですが、私が見方が悪いのかもしれないのですが、お問い合わせというのはあるのですが、ご意見とかご要望というのが入っていないと思うのです。もしご意見、ご要望が必要だったらそれを作られたほうがよろしいのではないかと思います。 |
| 石田管理課長 | 早速改善したいと思います。お問い合わせという項目だけで、確かメールのほうになっていたかと思えます。 |
| 木伏委員 | 最後に1点だけお願いします。5番の社会貢献の中の地域連携についての水族館ボランティアの受け入れとあるのですが、このボランティアには何をしていたか教えてください。 |
| 石田管理課長 | 説明もしたのですが、基本的には、館内の案内であるとか、教室の補助、自身の水族館に関する知識の研修という三つの柱でボランティア活動をしていただいております。 それで、例えば、平成27年度は全体で活動していただいた活動日数が251日でございます、延べ人数で742名の方が何らかのボランティア活動に参加していただいております。ちなみに、平成26年度は活動日数が196日、延べ人数が508人ございましたので、昨年度力を入れた成果が少し出ているのではないかと考えています。 |
| 木伏委員 | はい、分かりました。以上です。ありがとうございました。 |
| 徳永委員長 | 他にございますか。 |
| 菊野委員 | リニューアル後、2期目の指定管理ということになるわけですが、事業計画、自主事業、それから集客への取組み、社会地域貢献等すべてにおいて、新規の取組みもしくは改善をするということについてお聞かせいただきたいと思えます。 |
| 石田管理課長 | 事業計画のほうで2期目で新規に取り組んだことですか。 |
| 菊野委員 | 取組みたいと思うことです。 |
| 石田管理課長 | 取組みたいということでございますけれども、先ほど説明の中で、地元のファンをつかみたいということで、パスポートの購入者を増やしたいということをお願いしたのですが、今現在、6回から7回が平均リピートなのですが、今回、先ほど言った顧客管理システムも導入することから、リピート数を来年度以降平均10回を超えるような形で、色々案内をしたり、新しい変化を表現したりしてリピート数を増やしたいというのが入館者に対しては一番の新しい試みとして考えていることとさせていただきます。 |
| 鶴巻展示課長 | 展示課長の鶴巻といいます。 自主事業ということで、リニューアルで新たにオープンした新潟フィールドというビオトープがあるのですが、そちらを利用した観察会または参加者へ |

| | |
|-------|---|
| | の自然の理解のプログラムを新たに企画、実施していこうと考えております。 |
| 菊野委員 | 今の質問に関連することなのですが、前回のプレゼンテーションのときにはリニューアルをしたということであれもしてみたい、これもしてみたいという、大変意欲を感じるプレゼンテーションだったと記憶しています。本日のプレゼンテーションを聞いておまして、何か2期目を託したいとこちらに訴えかけるようなものがなかなか感じ取ることができなかったものですから、3年間、リニューアルされて課題ももちろん見えてきたとは思いますが、逆にリニューアルしたからこそこんなこともできるのではないかとという可能性もお感じになっていることがあるのではないかとということで、リニューアル後の2期目にかける意欲のようなところを具体的に聞いてみたいです。 |
| 加藤館長 | <p>ありがとうございます。新しく造ったところでは新潟フィールドなのですが、ここは四季の変化を皆さんにお感じいただくということで、環境再現、植栽から作り上げているものです。現在、新潟市は比較的自然度が高そうな地域に見えますが、実際はそんなことはなくて、例えば、実際の田んぼに蛙がいなかったり、小さいお子さんでもメダカを見てオタマジャクシと言ったりします。それから植物にしても、今、フィールドを歩くとセイタカアワダチソウの黄色い花がきれいに咲き誇ってしまっているわけなのですが、実際、そういう現状は本当は自然度が高くないということの表れだと思うのです。それで、新潟フィールドというのはある意味ノスタルジックな原風景を皆さんに感じていただきながら自然の大切さを知っていただきたいということで、色々な植栽を植えたのですが、だんだんよくなってきています。2年3年経って定着したり、例えば、蓮の花が咲いたり、絶滅危惧種のアサザという植物が一面黄色くなったり。そのように3年かけて育ったものを、まさにおっしゃるように水族館の資源として用いていきたいという気持ちがあります。</p> <p>例えば、絶滅危惧種のシナイモツゴとかトミヨとかホトケドジョウとかも、実際に新潟フィールドでは自然に繁殖してくれています。そういうものも、自然環境は新潟フィールドで見ると。ただし、小さい魚はなかなか見つけることができないので、その魚を水槽でご覧いただいて、うまく自然とリンクさせて、さらに、水族館は水族館だけで完結するような施設ではなくて、やはりフィールドに人々を誘うような、つなぐメディアという位置づけになっておりますので、皆さんが出かけていただけるような、そして自然環境を大切にいただけるような展示物につなげていきたいと思っております。</p> |
| 菊野委員 | そうすると、今回は建物内での事業に関しては現状のものを維持、発展させていくということですか。 |
| 加藤館長 | あとは、先ほど徳永委員長に怒られましたけれども、ご説明した色々なプログラム系ですが、あれも内容を変化させていっておりますので、必要なものは残して、おもしろいものは増やしてという形で回転はしているのです。そういう意味で、色々発展はしているつもりなのですが、今後も続けていきたいと思っています。例えば、ひれあし類解説などはアザラシを目の前に持ってきて皆さんの側で解説できたり、あれも新たに、3年前の提案のときにはなかったことなのですが、色々やれることはもちろんやっていきたいと思っております。 |
| 菊野委員 | はい、以上です。 |
| 徳永委員長 | はい、荒井委員いかがですか。 |

| | |
|--------------|---|
| <p>荒井委員</p> | <p>質問ではないのですけれども、要望があります。</p> <p>まず一つは、これから色々な経営環境も厳しくなっていくと思いますけれども、公立ならではの、地味かもしれませんが、地道な活動を今後も続けていきたいと思っています。</p> <p>特に、今、加藤館長がおっしゃったように、保全への貢献というのは必ずしも目立ちませんし、そしてそれをするによって必ずしも入園客数が増えるというものではないと思いますが、大変今後重要なことですし、今の屋外の展示施設も、もう既に色々なことをなさっているわけですからけれども、なかなかそれが表の効果としては出ないかもしれませんが、今後も地道に続けていただいて、新潟の野生生物の保全に貢献していただきたいと思っています。</p> <p>それからもう一つは、総合的な意味で、今の水族館は大変日本でも有数のレベルにあるわけですからけれども、それは、一番大きいのは、飼育トレーニングの技術は日本でも有数のレベルであるということが非常に大きいと思います。今後色々なことで就労条件なり人材育成の問題もありまして、この高い技術を維持するというのは大変かと思いますが、ある意味、それがあつての水族館であろうと思いますので、引き続きご努力いただきたいと思っています。以上です。</p> |
| <p>徳永委員長</p> | <p>はい、ありがとうございます。濱口委員いかがですか。</p> |
| <p>濱口委員</p> | <p>プレゼンを聞かせていただいて、全体の印象としては非常に平均化したお話をいただいたのかなと。つまり、言うべきことは言っているのだけれども、それ以上でもなく以下でもないような表現だったかなということで、少し。例えば、マリンピア日本海というのは他館と比べても何かがあるというようなことを最初におっしゃったのですけれども、その何がマリンピア日本海の売りなのかということ、まず、どのように意識されているか。多分、集客なり、今後、上越にも水族館ができたり色々なことがある中で、マリンピア日本海の売りみたいなものを少しとがらせる必要があるのかなと思うので、その辺をどのようにお考えになっているか、お聞かせいただけたらと思います。</p> |
| <p>加藤館長</p> | <p>ありがとうございます。私自身が特徴的だと思う、鈴木前館長もしょっちゅうおっしゃっていましたが、基本的に総合水族館です。そういう意味では、特徴がどこにあるかということ、日本海とイルカショーだったわけです。リニューアルのときに日本海をテーマにするのか…、暗く寂しいよと。あるいは、さんご礁にするのかという話があつて、結局、日本海ということになったわけです。これは正しかったと私は思っていますけれども、日本海にすると、やはり難しいのです。というのは、日本海沿岸には沢山の水族館があるし、日本海の成り立ちからいって、日本海の海洋生物に多様性があるか、あるいは地域性があるかということ、そんなことはないのです。</p> <p>そうすると、どういう見せ方があるのだという話になってきて、多くの水族館がエンターテインメント、あるいはバーチャルに走っています。そこに行かないのが特徴かなという気がしています。バーチャルにしてしまうと、せっかく生き物を野生から持ってきて、少し苦勞をかけて、いつも死ぬ可能性もあつて、見せていく意義が減ると思うのです。バーチャルでできるならバーチャルでいいですと、水族館は要りません、生き物を飼わなくてもいいと私は思います。なので、生き物を飼って見せるからにはそれなりのことを見せなくてはいけない、ご覧いただくかなくてはいけないと思います。あるいは、世の中に対して利益を生み出し</p> |

| | |
|--------|---|
| | <p>ていかなければならない。その中で、生き物について、沢山の正しい情報を皆さんに知っていただくと。それが水族館の本来あるべき姿だと思っています。なので、少し口幅ったいですけれども、骨太の水族館。皆さんに、何か少し分かりにくいしおもしろくないけれども、あとになってみたら実は新潟にあってよかったという水族館にしたいと思っています。</p> <p>熱く語るのを今回やめたのは、前回、かなり語らせていただいたので、あるいは以前も前館長が語ったので、皆さんも暑苦しくて嫌かなと思ひましてなるべくクールに行きましたが、ご質問いただきましたので、勝手にしゃべらせてもらいました。ありがとうございました。</p> |
| 濱口委員 | <p>多分、いい意味で公立の水族館であるということのをどのように使っていくかということが重要なのかなと。</p> <p>それからもう一つは、集客の話で色々議論されていて、何となく夏場は来るけれども冬場は来ないというお話があるのですけれども、それに対して、何となく、冬場を増やすほうが伸びしろがあるのかなと。つまり、夏場はいくら頑張ってもあんなものです。冬場を伸ばす方策みたいなものが何かないのかなというのが、聞いていて感じたことです。</p> |
| 加藤館長 | <p>多分、皆さん、昔から色々な施設で色々な方が沢山の時間をかけて考えていらっしゃるのだと思うのですけれども、なかなかいい答えがないです。言い訳なのでしょうけれども、やはり除雪ができないとか、寒いといったところが一番のネックだと思います。おそらく、マリンピアで何かやったとしても、来られないではないかという話になってしまいます。</p> |
| 濱口委員 | <p>水族館の中は暖かいですね。</p> |
| 小黒専務理事 | <p>先ほど年間パスポートのリピーターという話をしましたけれども、やはり多く目立つのが、中は暖かくて安全なわけですので、若いお母さんと小さいお子さんのセットで年間パスポートを持ちながら冬場の遊び場としてかなり活用されている方が目立つようになりました。車で来るわけで、なかなか厳しい状況だとは思いますが、そういう方が、非常に冬場の遊び場として、新潟は少ないですので、小さい子どもたちを遊ばせる、安全で。それから、年間パスポートを買っていただくと、かなり経済的にもお安くなります、何回来てもいいわけですので、そういう方が目立つようになりましたので、やはり市民に親しまれるということになると、年間パスポートを買っていただいて何回でも来ていただくというのも、一つの、集中的に力を入れるところかなと思っています。</p> |
| 徳永委員長 | <p>よろしいですか。松岡委員いかがですか。</p> |
| 松岡委員 | <p>いくつかお伺いしたいのですけれども、集客のところで平成26年度に加茂水族館、平成27年度に仙台うみの杜水族館がオープンということで、他の水族館の様子を気にされているようだとは思いますが、現状で、例えば、他の水族館がどういうことをやっているかという競合リサーチみたいなことはどのようなことをされているのかお伺いしたいのです。例えば、広報で SNS を上げられていると思うのですが、一般的に SNS だと Facebook や Twitter というところかと思うのですが、加茂水族館と仙台うみの杜水族館が今は「いいね」の数をいくつももらっているとか、具体的にご存じでしょうか。マリンピア日本海が今いくつかももちろんご存じなのでしょうか。</p> |
| 石田管理課長 | <p>最初のご質問で、他の水族館がどのようなことをやっているか、特に加茂水族</p> |

| | |
|--------|--|
| | <p>館であるとか仙台うみの杜水族館。加茂水族館はクラゲに特化している水族館で、私も昨年行ってまいりました。仙台うみの杜水族館もオープンの際に行ってまいりました。どちらかという仙台の水族館はマリンピア日本海に近く、百貨店のような色々な展示があるということなのですからけれども、やはり我々の水族館に比べるとまだ色々な部分で詰めが甘いといいますか、見せ方にしてもイルカショーの精度にしてもこれからの水族館なのだろうということで、物珍しさはあるけれども、1年くらいすると落ち着いて我々のお客さんもまた戻って来ていただけるようなイメージを持っておりました。</p> <p>我々もおっしゃるとおり SNS、Twitter と Facebook と LINE@ という業務用のラインを駆使しております。「いいね」の数は申し訳ありませんけれども最近のものについては把握していません。しかし、今、SNS の中では LINE@ に力を入れております。というのは、新潟フィールドでの小さな変化であるとか、信濃川水槽に新しい植物を入れたというような情報をダイレクトにお知らせして、特に年間パスポートを持っていらっしゃる方のリポートを増やす取組みに今年度から力を入れているところで、まだ少ないのですけれども、LINE@ の登録者数については 1,000 人ちょっとになっております。</p> |
| 松岡委員 | <p>その LINE@ から年間パスポートを買われているとか、実際に入場につながっているかというデータをこれから集める予定はありますか。</p> |
| 石田管理課長 | <p>はい。先ほども言いましたけれども、顧客管理システムができますので、そこから紐づけをして、どういうきっかけで来館したかということを知ることができるようにしたいと思っています。</p> |
| 松岡委員 | <p>ありがとうございます。その SNS に関してなのですが、加茂水族館が今は 1 万 7,162 で仙台うみの杜水族館が 7,915 でマリンピアが 239 ということで、大きく差がついてしまっているなという感じがありました。内容も私は見させてもらったのですが、マリンピア日本海は大体月 2 回くらいの定期的な発行をしているのですが、展示をやりますという内容が多くて、それはもちろんお知らせとして必要なことなのかなと思うのですが、他の水族館を見ても、入館されたお客様の様子とか、今日の生き物はこんな感じですか、あと、今で言うところのハロウィンの時期なので、展示の、アザラシか何かのところにハロウィン用のシールを貼っているの、今だったらこのアザラシが見られますみたいな感じで、今しかないみたいなタイムリーな情報をかなり頻繁に上げているので、そういったところで、もう少しこの SNS の活用方法を見直してみてもいいのかなと思いました。まず、「いいね」の数が増えない限り、どんなに情報発信しても 239 人にしか届きませんので、そこを草の根になっていくと思うのですが、まずはそこで情報をどういう年代に届けたいのかというリサーチをしていただいて、発信していただくよりも届きやすくなって、LINE@ のように効果が出るのかなと思いました。</p> <p>あと、今、職員の方が 54 名ということで、けっこう普通のコンビニとかに比べればだいぶ多い人数にはなるのかなと思うのですが、スタッフ間の情報共有は具体的にどのようにされているのか。結構大所帯になると、情報共有とか、あとは報告、連絡、相談というところでなかなか難しいところが出てくると思うのです。特に生き物は日々の細かいところでおそらくこまめな連絡が必要になってくると思うのですが、そういうところはどのように対策をこ</p> |

| | |
|--------|---|
| | れからされていくのか、少しお聞かせいただけますか。今やっているものでいいので、できれば館長から教えていただきたいと思います。 |
| 加藤館長 | 課ごとに定期的に会議を行っています。それは週に1回です。それから係ごとの会議は1日1回もしくは2回です。それで情報共有ということになります。 |
| 松岡委員 | 半分くらいが臨時の方のようなのですが、そういうシフトが少ない方に関しての情報共有はどのようにされていますか。 |
| 加藤館長 | 展示課と管理課についてはフルタイムで全員が動いています。清掃の方などが50何人に入っていないと思いますけれども。 |
| 松岡委員 | では、臨時扱いにはなっているけれどもフルタイムで普通に正規の方と同じように働かれているということですか。 |
| 加藤館長 | そうです。ですからミーティングには常に入っています。 |
| 松岡委員 | 分かりました。 先ほど木伏委員からも賃金のところであったのですが、そうすると、ますます疑問といいますか、収支計画書のところで先ほど管理職クラスの方が大体790万円というところで、飼育、事務、補助、イルカアシスタント、受け付けの方などが200万円ちょっとくらいという給料のところで、個別の職員の資格、経験というところで勤続年数も書かれていますのですが、勤務10年の方でも今はまだ臨時の状態になっていて、イルカショーのアシスタントとか割と責任の重い職だと思えるのですが、臨時扱いで10年経っても正規にはなかなか入れず、他のところを見ていくと、1年とか2年という方が多く、離職率もそこそこあるのではないかと予想したのです。ES、CSももちろん水族館は大事だと思うのですが、ESの部分に関しては、今後どのようにお考えですか。 |
| 小黒専務理事 | 先程からもお話があるように、水族館で働く職員の人たちが働きがいを持たないといういい展示、いい飼育にならない、それからいいお客様対応にならないということはやはり認識しております。この表にもあるように、正職員が28名、それから臨時的な職員が26名で合計54名働いているわけですが、なるべく私どもとしても正職員のほうに増やしていきたいという意図はあります。それから臨時職員の待遇改善も進めていきたいと。ただ、やはり指定管理料の中で賄っているものですから、なかなかその部分では市の予算との絡みもありまして、なかなか私どもだけで正職員をもう2人、3人と増やせないというのも実情なのですが、なるべくそんな方向で、やはりこれから運営を行っていきたくと思っています。 |
| 松岡委員 | 管理職の賃金改定などは考えられはしないのですか。かなり、何倍の金額、やはり責任感はもちろんあると思うのですが、何かその辺りの改訂とか見直しはされないのでしょうか。 |
| 小黒専務理事 | やはり正職員と臨時職員との賃金も含めた待遇の格差、歴然とあるのは事実でございます。なかなか正職員の方をもう少し落としてという部分も苦しいわけでございますので、その辺のところはまた経営努力しながら、何とかやはり臨時職員の処遇改善は図っていきたくと思っています。 |
| 松岡委員 | 最後に一つ。ボランティアが結構活躍されていると伺ったのですが、ホームページを拝見して、私も探し方が悪かったのかもしれないですが、登録のフォームなどがなくて、どのように募集して、活動なども目に見える形にさせていただいたほうがいいのかと思います。私も少しやってみたくと思って探したのですが、どこから登録していいのか分からなかったのです。 |

| | |
|--------|--|
| 石田管理課長 | <p>おっしゃるとおりホームページでは募集しておりませんで、年度初めに市報にいがたで募集をかけているところがございます。基本的には1年更新で、継続を望まない方はそのまま去っていくわけですがけれども、継続を望む方はその都度更新をしているところで、現在、90名くらいの登録となっております。ですので、一度に沢山いらっしゃるといのが実情なのですけれども、一定のスキルアップのためには人数を絞らないと我々の方も対応ができないものですから、1年に1回の募集とさせていただいております。</p> <p>なお、活動状況について、どこにも出していないというのはこれから改善すべきだと思っておりますので、また考えたいと思います。</p> |
| 松岡委員 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 徳永委員長 | <p>他にございませんか。よろしいですか。</p> <p>冒頭に少し厳しいことを申し上げましたけれども、とにかく傍聴の方もいらっしやいますし、それから競争がないということは、何よりも安心して任せていいなどみんなを思わせるようなプレゼンをお願いしたいということで、敢えて申し上げたところです。</p> <p>これから51万人を今後維持していくということは結構大変だと思います。そういう意味では、私、今、美術館をやっているのでも分かるのですけれども、なかなか夏場が、逆に暑すぎて非常にお客さんの、一番いい時期とは言い難い状況になってきたということもありまして、やはり今後接客するには冬というのは一つ、確かにターゲットゾーンとして考えてもいいのではないかと思います。私どもの美術館でも冬場にやった展覧会で2番目の記録というものもございます。だから持っていき方によっては決して諦める期間ではないということも少しご留意いただきたいと思います。</p> <p>それから、せっかく市の施設がいくつかあります。現に私の長岡市の方では色々な施設と連携した事業を、今、実験的に進めております。その辺も今後考えられていくのではないかと思います。例えば、近々にあるのですけれども、私どもの向かい側の長岡リックホールの劇場と我々と、それから酒造会社、旅行会社と協力して東京からの集客に成功したということもございます。そういうものはあくまでも実験的にやっているのですが、色々なところを利用されるのも一つの道かと思えます。</p> <p>いずれにしても、確かに2期目ですので、加藤館長がおっしゃったように派手にやるより確実にやるということが何よりも施設の管理者としては大事なことは重々承知しているのですが、安心して、素晴らしい指定管理の方だからお任せしていいのだとみんなを思わせるように、ぜひ、お願いしたいと思います。少し強面に申し上げまして、大変失礼いたしました。</p> <p>他によろしいですか。</p> <p>ありがとうございました。では、概ね質問は出揃ったということでございますので、引き続きまして評価になりますが、その前に事務局から連絡がございましたらお願いいたします。</p> |
| 南雲補佐 | <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、事務連絡させていただきます。本会議の公開は以上となります。評価は非公開で実施いたしますので、傍聴の方は恐れ入りますがご退席をお願いいたします。また、申請者様もご退席をお願いいたします。</p> |